

# 仙台市市民協働事業提案制度 平成26年度事業 報告レポート

事業名：仙台市民と外国人で考える多文化共生推進のまちづくり  
市民ライターによる仙台魅力発見ガイド制作事業(Speak out about Sendai)

- 解決したい課題と目的：①市民の積極的地域活動への参画  
②外国人がくらしやすい多文化共生のまちづくりへの異文化相互理解  
③多様な視点による仙台市の魅力発掘と共有（地域づくりと観光づくりの融合）

□事業内容：市民ライターによる仙台の魅力発見ガイド制作事業  
外国人とともにワークショップを通して、まちの魅力を発見、参加者自身が市民ライターとなり一冊のガイドブックとして制作。制作後ガイドを活用したまち歩き企画を開催。市民視点による地域情報発信の新しい試み

□事業実施によりもたらされる効果、成果目標

- ①外国人も含めた市民交流と協働による場作りがもたらす相互理解促進
- ②市民視点の対話による仙台の魅力の再発見と、それらをまとめたガイド作成により、市民同士の積極的地域活動への参画を促す
- ③ガイドを活用した地域づくりと観光づくりの促進

□事業体制

主催：仙台市・株式会社ソノベ  
協力：(公財)仙台国際交流協会/テンプスタッフ・カメイ株式会社

□事業フロー

- ①2014年 4月 説明会開催
  - ②2014年5月～8月(全4回)アイデア・ワークショップ
  - ③2014年9月～12月(全4回)編集ワークショップ
  - ④2015年1月 まち歩きルート選定ワークショップ
  - ⑤2015年まち歩きフィールドワーク
- ※2015年3月国連防災世界会議期間中、市民ガイドブース実施

ワークショップ・まち歩き参加人数述べ307名  
(日本人245名・外国人市民62名)  
※外国人アンケート100人別途開催

□制作物

- ①センダイガイドブック(A5・カラー・40P 1100部)
- ②WEBサイト
- ③電子書籍



## □市民協働で取り組んだことによる効果と振り返り

### (1)対話の中から生まれた多様性のある自発的関わり合い

行政と民間、そして市民それぞれが外国人市民も加わり、それぞれの立場や経験そして視点から自分たちの意見を話し合い、ガイド制作へとつないでいった。その協働の成果として、自分たちが伝えたい仙台を一冊のガイドブックとして作り上げることができた。お互いが他人の意見も尊重しながら、自分たちの意見も声に出す話し合いのなかで自発的な関わり合いが形成されたことが一番の効果と考える。

### (2)市民の積極的地域活動への参画

延べ300人以上の市民がこのプロジェクトに関わり、地元に対してあらためて目を向け、まちを知る、考える機会が増えるきっかけとなった。対話を積み重ね、取材先を選定し、取材、編集を行った。ワークショップ開催の中でも積極的な意見交換が行われ、英語が得意な方は翻訳のサポートをするなど市民同士においても相互協力を促し積極的地域活動への参画を促すことにつながった。参加年齢も高校生から60歳代まで幅広い層が参加したことも効果の一つ。

### (3)外国人がくらしやすい多文化共生のまちづくりへの異文化相互理解

今回の活動を通し、日本人と外国人がともに仙台の魅力について語る対話の場や外国人市民が講師となり自らの意見を共有する場、外国人市民からみた仙台の魅力などを共有。あわせて日本人、外国人市民が協力し、目次作りから取材、記事作成、そして町歩きと連動した形でプロジェクトを遂行するなかで互いの視点の違いなどにも触れることができた。ただし参加者数で見ると日本人9割、外国人市民1割と外国人市民の参画が少なかったことは課題。要因として主に参加してくれていた留学生など継続的参加が厳しかったことが挙げられる。また日程が土曜日中心ということで英語関連の仕事をしている社会人には参加したくても難しかったことが挙げられる。

## □市民協働制度の振り返り

民間企業として初めて採択をされたこともあり関わるメンバーが手探りの中、ワークショップ運営やガイド作成のプロセスを通し、互いに自主的に役割分担を担うなど協働体制を深めることができた。また仙台国際交流協会をはじめ、在仙の通訳、翻訳会社、地元カメラマン、留学生マンション管理会社など様々な団体も活動に参画いただくことができ、全体として地域行政、民間企業、市民が三位一体で取り組む協働ができたことは大きな成果と考える。  
※より協働を促進するためには、事業スタート時、および終了時に「市民協働」や「ゴールの確認とその後」についてより十分な時間をとり対話が必要とも感じている。(事業にて構築したネットワークやノウハウの共有の面も含む)

## □市民協働で活かした経験を次につなげるために(ソノベグループとして)

今回の経験を発展させ、市民が主体となる観光まちづくりとして、地元を英語でガイドする「Ask me about Sendai」プログラムの実証実験をスタート。「多様な視点による仙台市の魅力発掘と共有」をベースとした地域活性視点と観光まちづくり視点の融合に向け、今後の連携の可能性にむけて観光交流課との意見交換の場を要望(次のステージの協働に向けて)※地下鉄WEプロジェクトとも連動検討



今回の事業経験を活かした日本人・外国人市民が地元を語る  
次への展開チャレンジ



2015年3月  
国連防災世界会議期間、勾当台公園において市民ガイド  
ブース展開(ガイド配布や道案内や町歩き)



2015年4月～5月(センダイ自由大学)  
Ask me about Sendai 地元一番町を英語でガイドするトレーニングクラス  
外国人市民から、外国人視点や英語でのガイドを学ぶ。15名が参加し  
自分たちでルートをつくり英語でガイドの模擬実験を行った。



2015年3月  
地元を英語でガイドするツアー(山形県朝日町)  
仙台市民が、英語で東北をめぐるツアー。市内在住の日本人、外国人市民が  
参加。英語でのガイドツアーモデル検証



2015年4月  
バイリンガル視点で観光まちづくりセッション  
小布施の観光まちづくりに寄与した  
セーラ氏を招いて東北をバイリンガルで語れる  
人が増える未来セッション



2015年5月  
中国人留学生協力による地元から友人が  
来た時に仙台を案内するシュミレーション  
リサーチ

日本人も外国人市民も地元をガイドする  
地元を知る、伝える観光まちづくり・人づくりの地域協働  
へ向けて次のアクションを。